



津波が心配なのに…

なぜ、発電所は海の近くにあるの？



質問者の小川さん

津波が心配だから山の方に作ればいいのに…。
発電所が海の近くにあるのには、こんな理由があるんです。

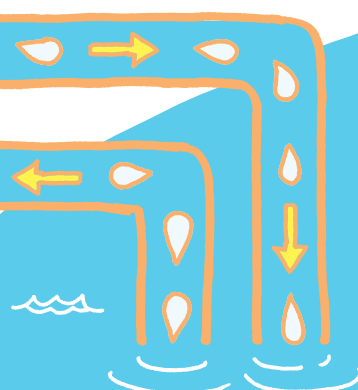
そういえば
なんでだろう…



ミラエネQuiz

Q

発電所が海の近くにあるのは、あるものが必要だから。さて、それは何でしょう？
下のA、B、Cから選んでね。



おさかなだったら
うれしく
なっちゃうかも！



B

海水

A

潮風

C

おさかな

どれくらいの海水を使うの？

大量の蒸気を冷やして水に戻すためには、大量の水が必要です。そのため、浜岡原子力発電所の4号機の場合、1秒間に約80m³の海水を海から取り込みます。これは、25mプールを5秒程度でいっぱいにする水の量です。



福島第一原子力発電所の事故後、原子力発電に対して不安をお持ちの方は多いと思います。中部電力はくらしに欠かせないエネルギーを安定的にお届けするという責務を持つ会社として、皆さまに「エネルギーのこと、そして浜岡原子力発電所の今」をお伝えしたいと考えています。「ミラエネだより」では、なるべくわかりやすく紹介することで少しでも多くの方にお伝えできればと思っています。



発電所にはたくさんの海水が必要なんです

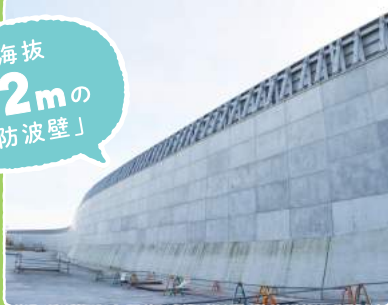
カモ
なぞが
解けた

原子力発電では、下図のように、大量の**ア**水を沸騰させて大量の蒸気をつくり、この蒸気を利用して発電しています。なお、発電で利用した蒸気は大量の**イ**海水で冷却し、再び水にすることで再利用しています。この蒸気を冷却するために必要な大量の水=海水を確保するため、「発電所は海の近くにある」のです。

発電所のしくみ



海拔
22mの
「防波壁」



Q 浜岡原子力発電所に津波が来たらどうなるの？

浜岡原子力発電所は、東京電力福島第一原子力発電所の事故をふまえ、さまざまな津波対策を行っています。例えば「防波壁」。海岸沿いには海拔22mの「防波壁」をつくり、もし津波が発生しても敷地内への浸水を防ぎます。また、万が一敷地内に津波が入っても、建物内への浸水を防ぐために「強化扉、水密扉」を設けています。次号では、この「防波壁」についてお伝えします。



中部電力

広報部 コミュニケーション推進グループ お問い合わせ：052-951-8211 平日9:00～17:00(土日祝、12/29～1/3は除く)

※本ページの掲載内容は、取材時の取材内容に基づいており、状況が変更される場合があります。